

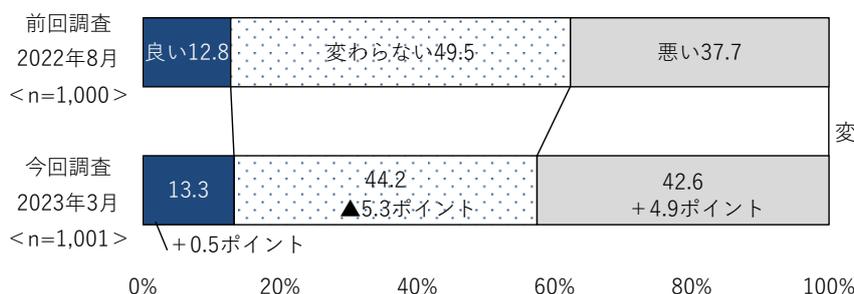
「第13回 消費動向に関するインターネット調査」の結果について
 —生活必需品等の値上がりにより、暮らし向きの悪化を実感している人が増加—

<調査結果のポイント>

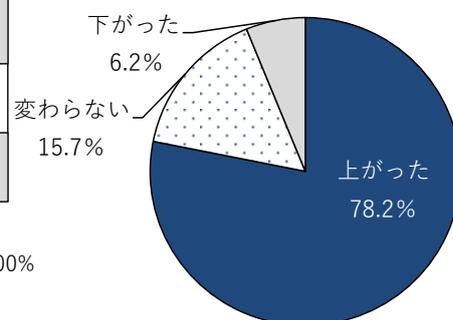
■暮らし向きの状況 ～現在の暮らし向きは約4割が「悪い」と回答～

- ・ 現在の暮らし向きが「良い」※1と回答した人の割合は13.3%、「悪い」※2と回答した人の割合は42.6%となった。(図表1)
 - ※1 「良い」＝「良くなった」＋「どちらかと言えば、良くなった」
 - ※2 「悪い」＝「悪くなった」＋「どちらかと言えば、悪くなった」
- ・ 前回調査(2022年8月)と比べると、「良い」と回答した割合は+0.5ポイント、「悪い」と回答した割合は+4.9ポイントとなった。
- ・ よく購入する物の価格が1年前と比べて「上がった」※3と回答した人の割合は78.2%、「下がった」※4は6.2%、「変わらない」は15.7%となった。(図表2)
 - ※3 「上がった」＝「かなり上がった」＋「少し上がった」
 - ※4 「下がった」＝「かなり下がった」＋「少し下がった」
- ・ 日常生活を送る上での生活必需品や光熱費の値上がりにより、家計負担が増したことで、暮らし向きが悪化した可能性がある。

【図表1】 1年前と比べた現在の暮らし向き



【図表2】 1年前と比べた物価の変化
<n=1,001>



<調査の概要>

- (1) 調査時期 2023年3月
- (2) 調査方法 インターネット調査
- (3) 調査対象者 栃木県、茨城県、群馬県、埼玉県の20歳以上の男女
(20歳～69歳：有職者 70歳以上：有職者＋無職等)
- (4) 回答者数 1,001人
- (5) 回答状況 下記のとおり

回答状況

		回答者数(人)	構成比(%)			回答者数(人)	構成比(%)
全体		1,001	100.0	業種	製造業	142	31.3
性別	男性	501	50.0		卸・小売業	51	11.3
	女性	500	50.0		建設・不動産業	27	6.0
年代	20-29歳	184	18.4		情報通信業	22	4.9
	30-39歳	184	18.4		運輸業	26	5.7
	40-49歳	184	18.4		医療・福祉	57	12.6
	50-59歳	184	18.4		飲食・サービス業	42	9.3
	60-69歳	185	18.5		金融・保険業	35	7.7
	70歳以上	80	8.0		その他	51	11.3
	職業	会社員・会社役員	464		46.4		
公務員・団体職員		94	9.4				
自営業		42	4.2				
自由業・専門職		32	3.2				
派遣・契約社員		69	6.9				
パート・アルバイト <small>(学生・専業主婦・主婦を除く)</small>		233	23.3				
無職・その他		67	6.7				

(6) 注意点

図表中のnとは、回答者数のことである。

集計は、小数第2位を四捨五入しているため、数値の合計は100%にならない場合がある。

(7) 目次

1. 暮らし向きについて

- (1) 1年前と比べた現在の暮らし向き（家計収支の状況） P3
- (2) 1年前と比べた世帯収入の変化 P4
- (3) 1年前と比べた世帯収入の増減理由 P5
- (4) 1年前と比べた世帯支出の変化 P7
- (5) 1年前と比べて増えた支出 P8
- (6) 1年後の暮らし向き（家計収支の状況） P10
- (7) 1年後の暮らし向きが現在と比べて「良くなる」要因、「悪くなる要因」 P11

2. 貯蓄の状況について

- (1) 毎月の貯蓄額 P12
- (2) 貯蓄方法 P12
- (3) 貯蓄総額 P13

3. 転職について

- (1) 転職意向 P14
- (2) 転職を考えている理由、考えていない理由 P14

4. 副業について

- (1) 副業についての考え P15
- (2) 副業をしている理由、考えている理由 P15

5. 冬季ボーナスについて

- (1) 冬季ボーナスの受給状況（前年冬季ボーナス比） P16
- (2) 冬季ボーナスの受給額 P16
- (3) 冬季ボーナスから貯蓄に回した金額 P17
- (4) 冬季ボーナスを貯蓄に回した目的 P18

6. 物価について

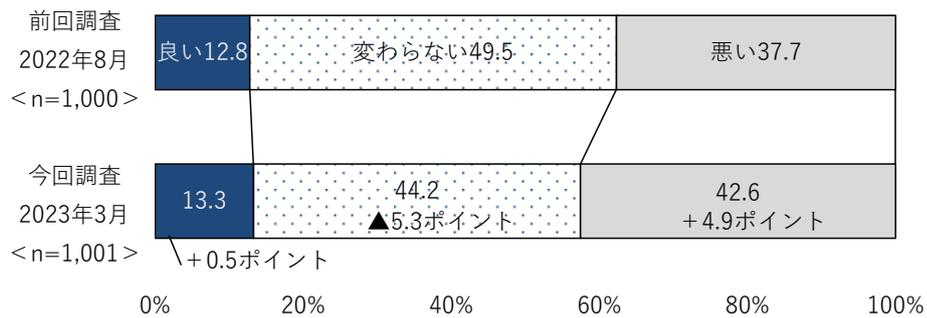
- (1) 1年前と比べた物価の変化 P19
- (2) 物価上昇への対応 P19
- (3) 特に価格が上がったと感じるもの P20
- (4) 1年前と比べた電気・ガス料金、水道料金の変化 P20
- (5) 1年後の物価の見通し P21

1. 暮らし向き(状況)について

(1)1年前と比べた現在の暮らし向き(家計収支の状況)

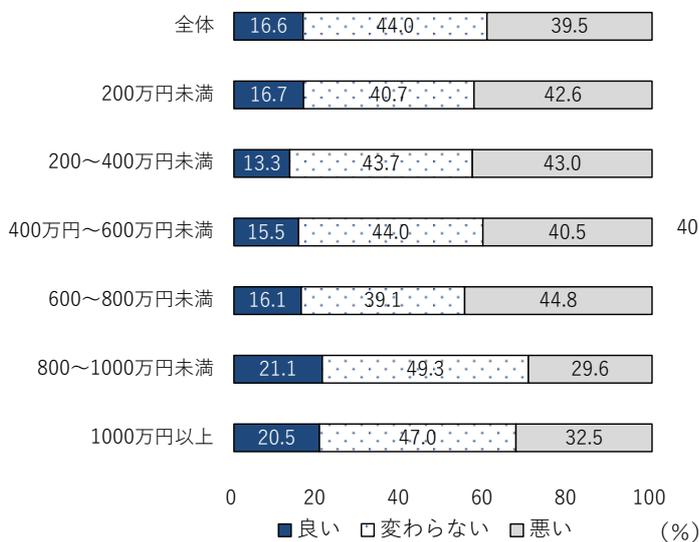
- 現在の暮らし向きが「良い」※¹と回答した人の割合は13.3%、「悪い」※²と回答した人の割合は42.6%となった。(図表1)
- ※1 「良い」=「良くなった」+「どちらかと言えば、良くなった」
- ※2 「悪い」=「悪くなった」+「どちらかと言えば、悪くなった」
- 前回調査(2022年8月)と比べると、「良い」と回答した割合は+0.5ポイント、「悪い」と回答した割合は+4.9ポイントとなった。

【図表1】 1年前と比べた現在の暮らし向き

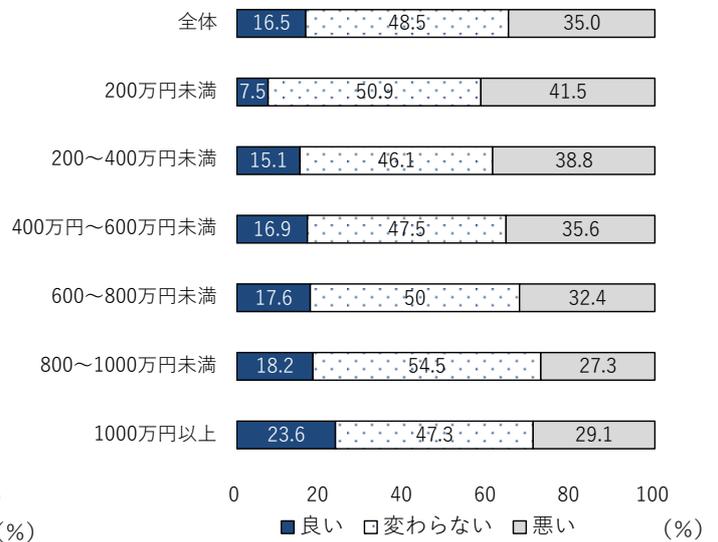


- 世帯年収別にみると、現在の暮らし向きが「悪い」と回答した人の割合は、前回調査(2022年8月)と比べ、全ての年収帯において増加している。(図表2、図表3)

【図表2】 暮らし向き(状況) (世帯年収別)
<n=598>



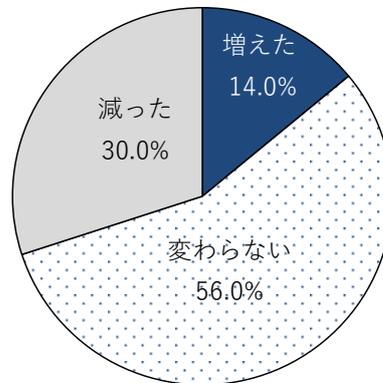
【図表3】 暮らし向き(状況) (世帯年収別)
<2022年8月調査 n=577>



(2)1年前と比べた世帯収入の変化

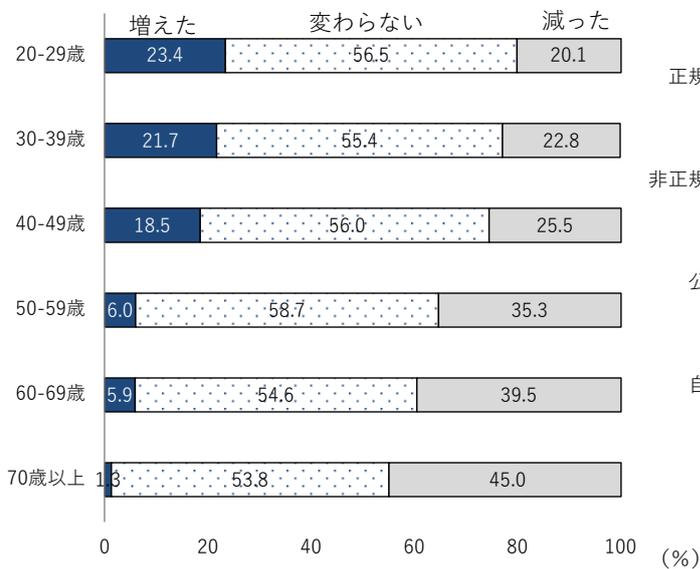
- 1年前と比べて世帯収入が「増えた」と回答した人の割合は14.0%、「減った」は30.0%、「変わらない」は56.0%となった。(図表4)

【図表4】 1年前と比べた現在の世帯収入
<n=1,001>

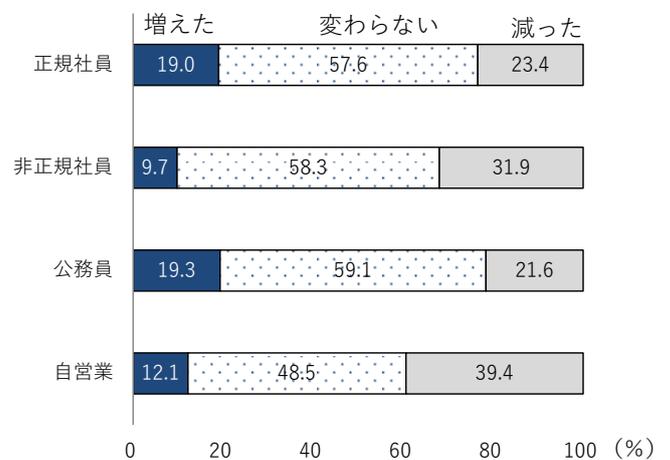


- 1年前と比べて世帯収入が「増えた」と回答した人の割合は、年代別で見ると、20代では「減った」と回答した人の割合を上回っているが、それ以外全ての年代で「減った」と回答した人の割合を下回っている。また、雇用形態別にみると、全ての雇用形態で「減った」が「増えた」を上回った。(図表5、図表6)

【図表5】 1年前と比較した現在の世帯年収（年代別）
<n=1,001>



【図表6】 1年前と比較した現在の世帯収入（雇用形態別）
<n=895>

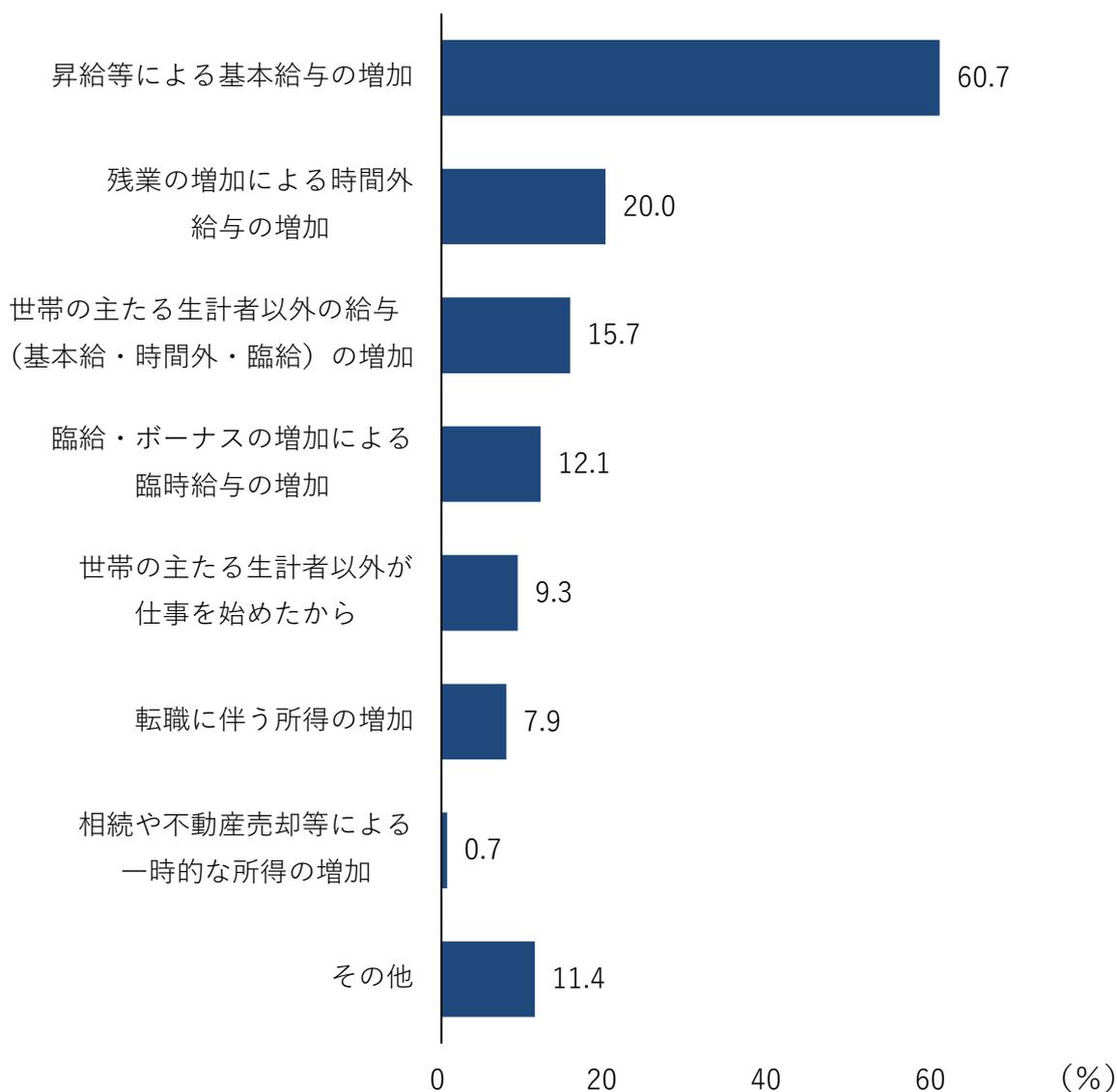


(3)1年前と比べた世帯収入の増減理由

- 1年前と比べて世帯収入が増えた世帯についてその理由をみると、「昇給等による基本給与の増加」が60.7%と最も多く、次いで「残業の増加による時間外給与の増加」が20.0%、「世帯の主たる生計者以外（配偶者・パートナーなど）の給与（基本給・時間外・臨給）の増加」が15.7%となった。（図表7）

【図表7】 世帯収入の増加理由

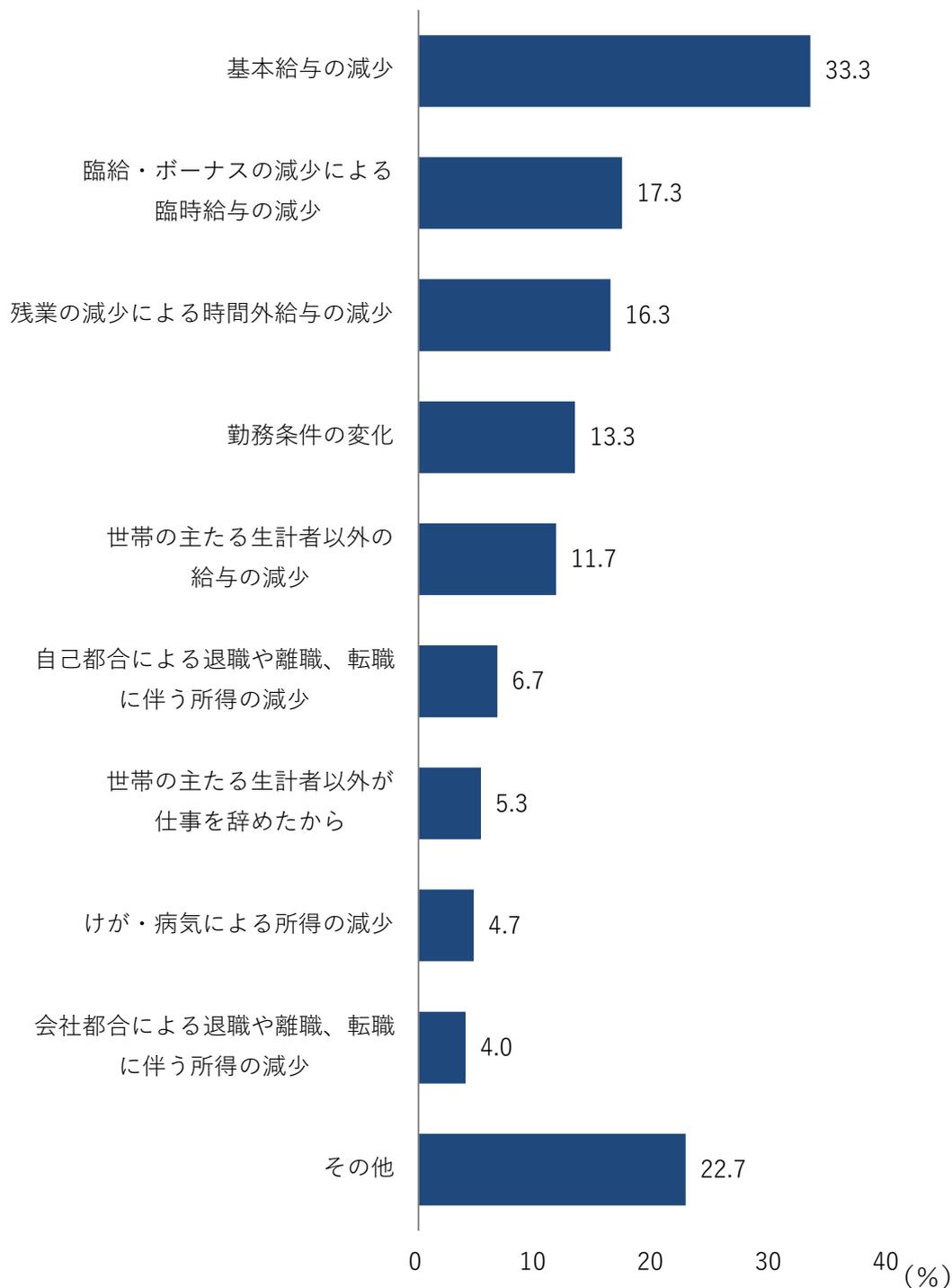
<複数回答 n=140>



- 1年前と比べて世帯収入が減った世帯についてその理由をみると、「基本給与の減少」が33.3%と最も多く、次いで「臨給・ボーナスの減少による臨時給与の減少」が17.3%、「残業の減少による時間外給与の減少」が16.3%となった。(図表8)

【図表8】 世帯収入の減少理由

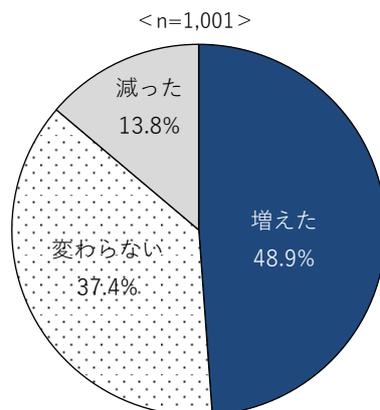
<複数回答 n=300>



(4)1年前と比べた世帯支出の変化

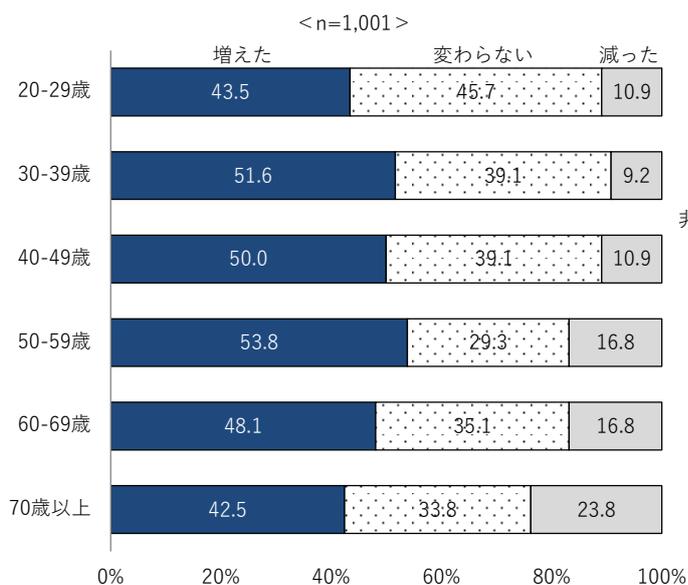
- 1年前と比べて世帯支出が「増えた」と回答した人の割合は48.9%、「減った」は13.8%、「変わらない」は37.4%となった。(図表9)

【図表9】 1年前と比べた現在の世帯支出

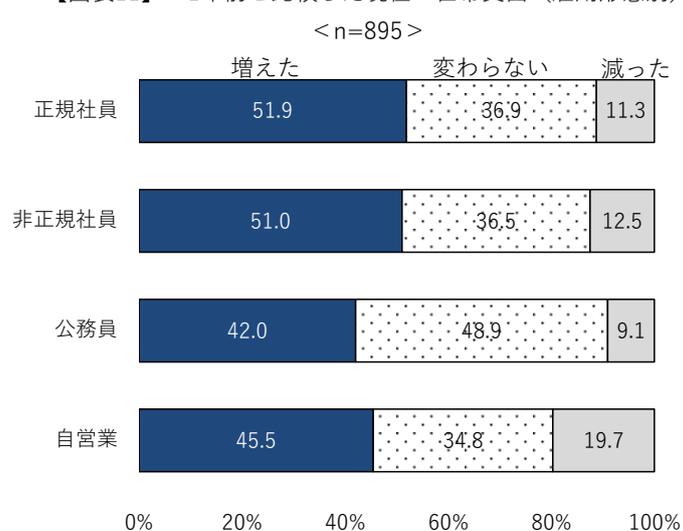


- 年代別にみると1年前と比べて世帯支出が「増えた」と回答した人の割合は、全ての年代で、「減った」と回答した人を上回った。(図表10)
- 雇用形態別にみると、世帯支出が「増えた」と回答した人の割合は正規社員、非正規社員で過半数となった。(図表11)

【図表10】 1年前と比較した現在の世帯支出（年代別）



【図表11】 1年前と比較した現在の世帯支出（雇用形態別）

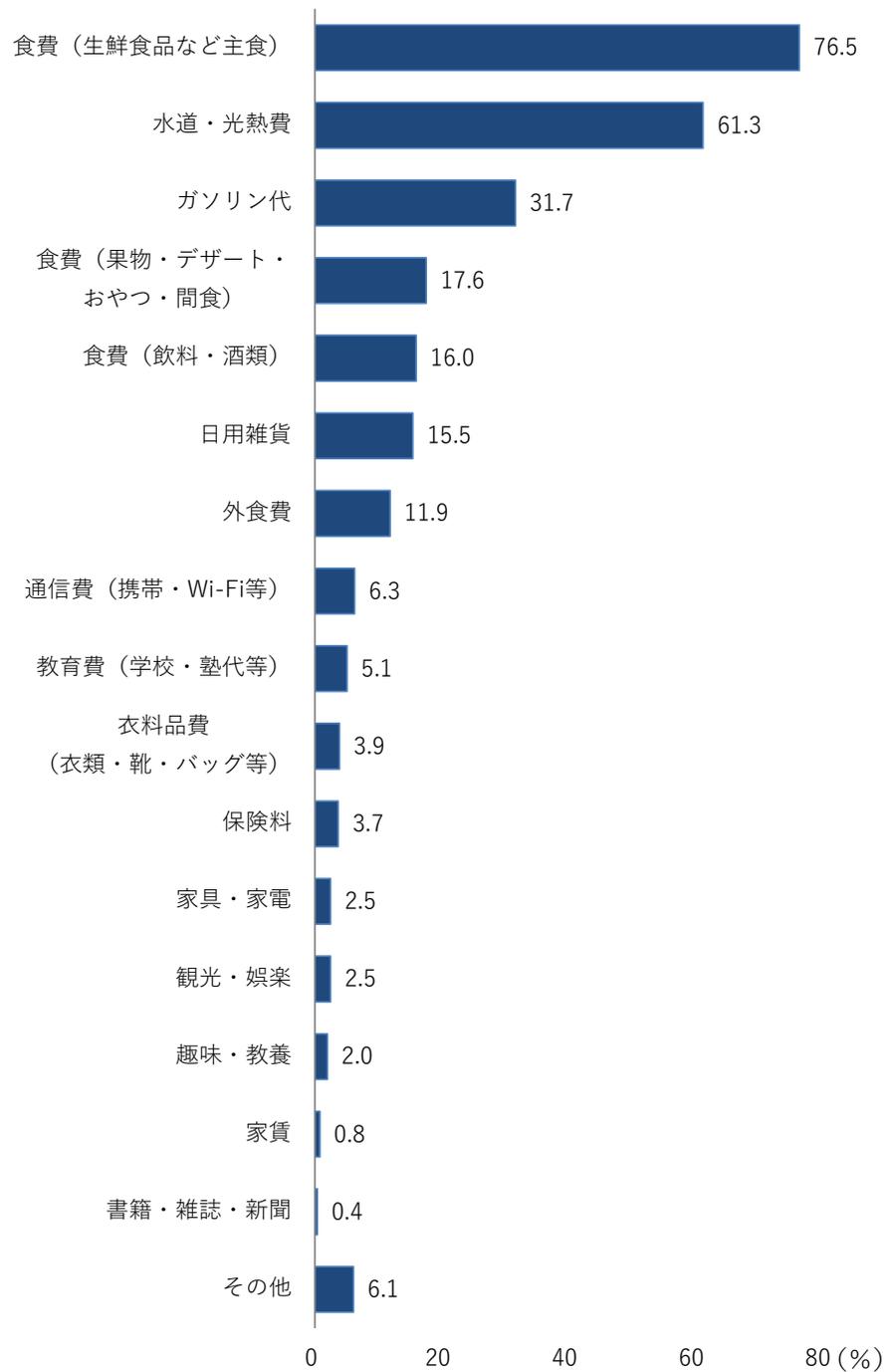


(5)1年前と比べて増えた支出

- ・ 1年前と比べて世帯支出が「増えた」人について特に増えた支出をみると、「食費（生鮮食品など主食）」が76.5%と最も多く、次いで「水道・光熱費」が61.3%、「ガソリン代」が31.7%となった。（図表12）
- ・ 値上がりが続く食料品やエネルギーに関連する品目での支出増加が目立つ。家計負担が増している可能性がある。

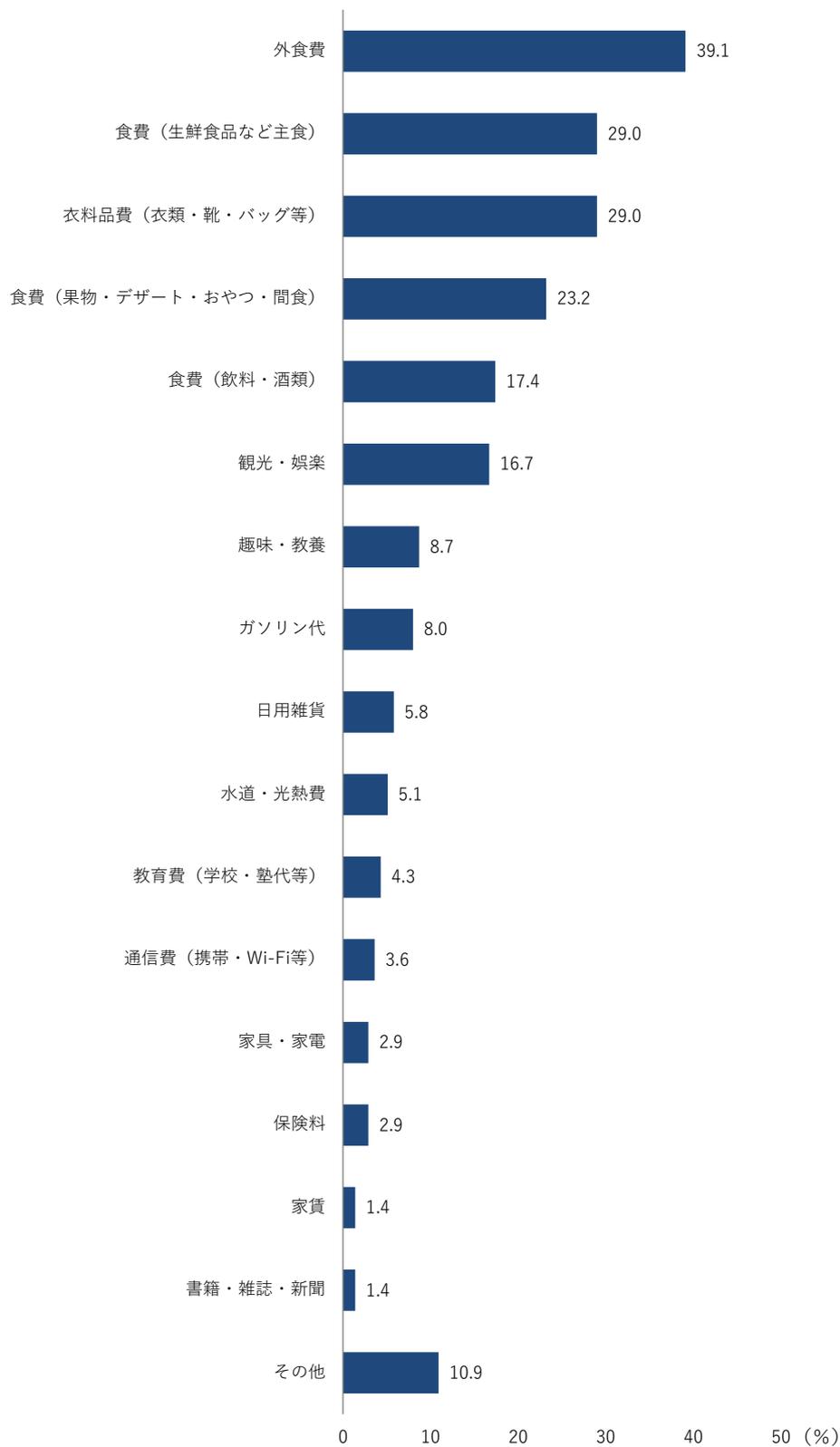
【図表12】 1年前と比べて増えた支出

<複数回答 n=489>



- ・ 1年前と比べて世帯支出が「減った」人について特に減った支出をみると、「外食費」が39.1%と最も多く、次いで「食費（生鮮食品など主食）」及び「衣料品費（衣類・靴・バッグ等）」が29.0%となっている。（図表13）
- ・ 物価上昇で家計の負担感が増す中、外食等の支出を抑える動きがみられた。

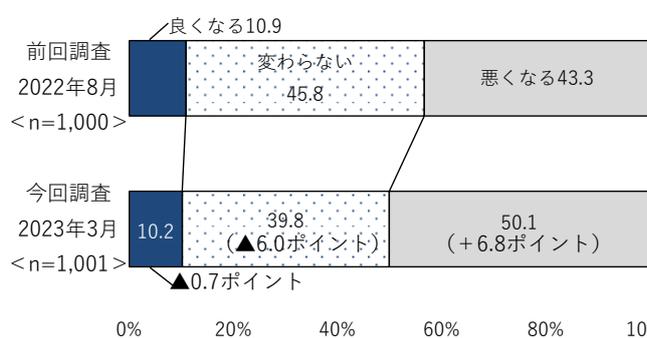
【図表13】 1年前と比べて減った支出
<複数回答 n=138>



(6)1年後の暮らし向き(家計収支の状況)

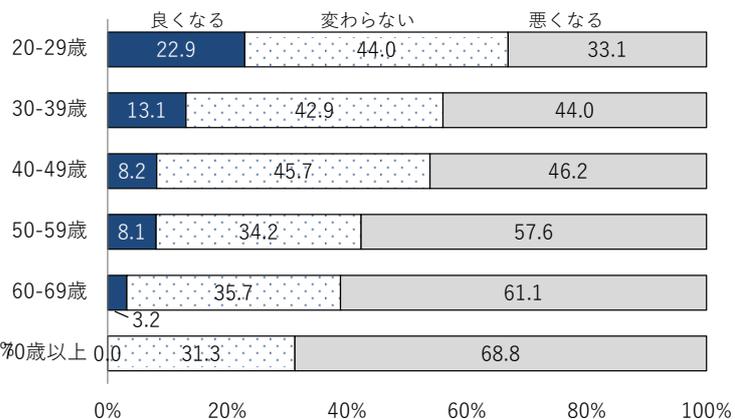
- 1年後の暮らし向きが「良くなる」^{※3}と回答した人の割合は10.2%、「悪くなる」^{※4}は50.1%、「変わらない」は39.8%となった。(図表14)
 - ※3 「良くなる」=「良くなる」+「どちらかと言えば、良くなる」
 - ※4 「悪くなる」=「悪くなる」+「どちらかと言えば、悪くなる」
- 前回調査(2022年8月調査)と比べると、「良くなる」と回答した割合は▲0.7ポイント、「悪くなる」と回答した割合は+6.8ポイントとなった。(図表14)
- 年代別にみると、1年後の暮らし向きが「悪くなる」と回答した人の割合は、年代が上がるにつれ大きくなっている。(図表15)

【図表14】 1年後の暮らし向きの状況



【図表15】 1年後の暮らし向きの状況(年代別)

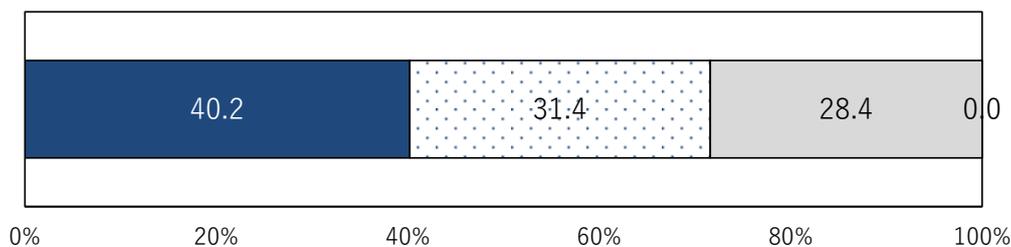
<複数回答 n=1,001>



(7)1年後の暮らし向きが現在と比べて「良くなる」要因、「悪くなる」要因

- 1年後の暮らし向きが「良くなる」と思う主な要因については、「世帯収入が増加して、支出も抑えるから」が40.2%で最も多く、次いで「支出は増加するが、それ以上に世帯収入が増加するから」が31.4%、「世帯収入は変わらないが、支出を抑えるから」が28.4%となった。なお、「世帯収入は減少するが、その分支出を抑えるから」との回答はなかった。(図表16)

【図表16】 1年後の暮らし向きが「良くなる」と思う主な要因
<n=102>



- 世帯収入が増加して、支出も抑えるから
- 支出は増加するが、それ以上に世帯収入が増加するから
- 世帯収入は変わらないが、支出を抑えるから
- ❖ 世帯収入は減少するが、その分支出を抑えるから

- 1年後の暮らし向きが「悪くなる」と思う主な要因については、「世帯収入は変わらないが、支出が増えるから」が50.3%と最も多く、次いで「世帯収入が減少して、支出も増えるから」が33.3%となった。(図表17)
- 生活必需品を中心とする物価の上昇が、今後の家計の暮らし向きを悪化させる懸念がある。

【図表17】 1年後の暮らし向きが「悪くなる」と思う主な要因
<n=501>

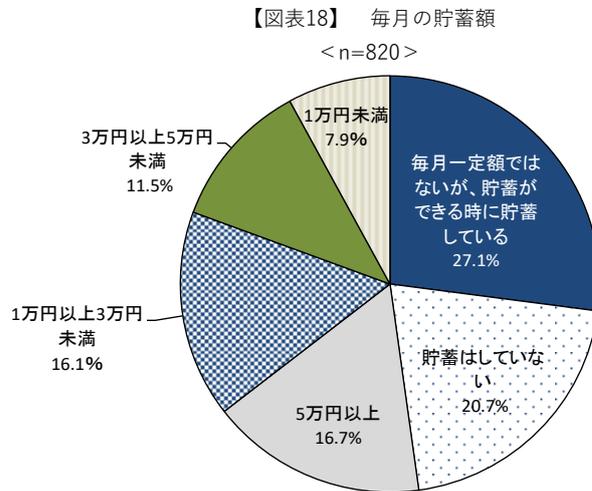


- 世帯収入が減少して、支出も増えるから
- 支出は減少するが、それ以上に世帯収入が減少するから
- 世帯収入は変わらないが、支出が増えるから
- 世帯収入は増加するが、それ以上に支出が増えるから

2. 貯蓄の状況について

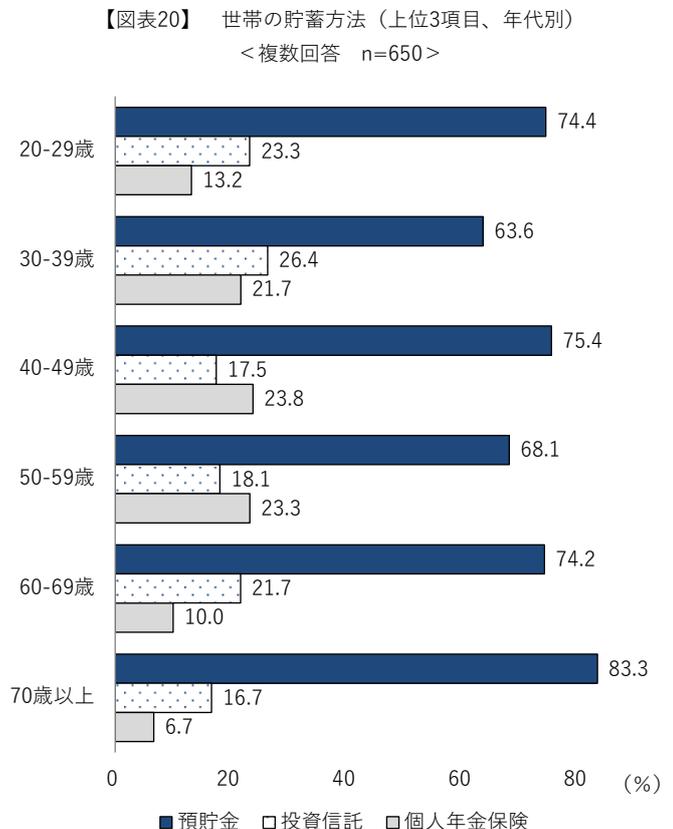
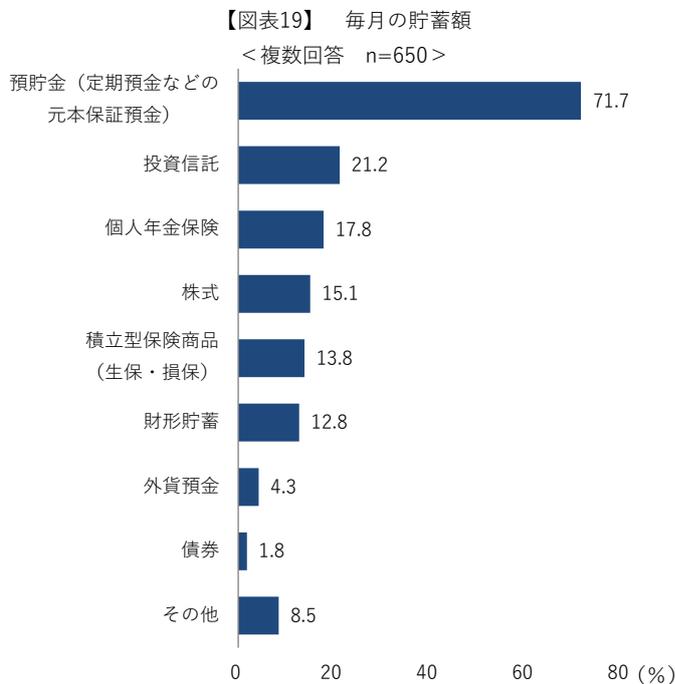
(1) 毎月の貯蓄額

- 家計の毎月の貯蓄金額の状況を見ると、「毎月一定額ではないが、貯蓄できるときに貯蓄している」が27.1%と最も多く、次いで「貯蓄はしていない」が20.7%、「5万円以上」が16.7%となった。（図表18）



(2) 貯蓄方法

- 主な貯蓄方法は、「預貯金（定期預金などの元本保証預金）」が71.7%と最も多く、次いで「投資信託」が21.2%、「個人年金保険」が17.8%となった。全世代で「預貯金（定期預金などの元本保証預金）」で貯蓄する割合が多い。（図表19、図表20）

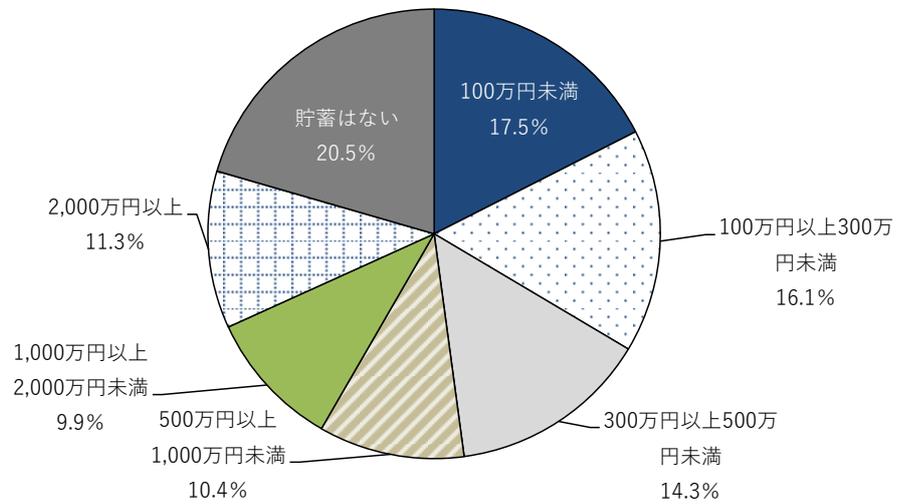


(3)貯蓄総額

- 世帯の貯蓄総額は、「貯蓄はない」が20.5%と最も多く、次いで「100万円未満」が17.5%、「100万円以上300万円未満」が16.1%となった。(図表21)

【図表21】 世帯の貯蓄総額

<n=566>

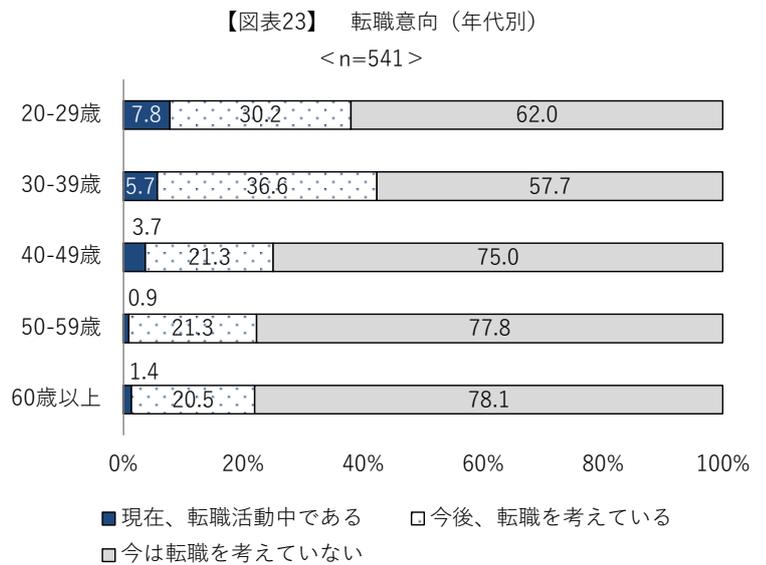
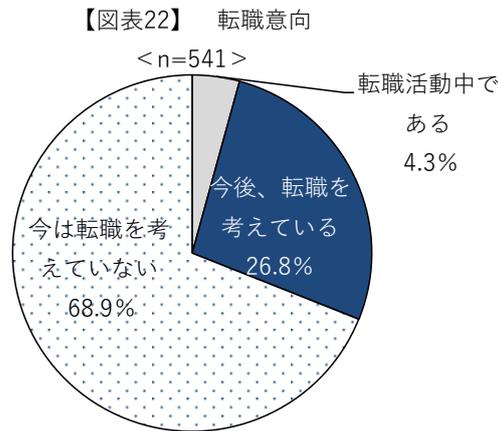


3. 転職について<有職者のみ、会社員(管理職含む)・会社役員・公務員・団体職員>

(1) 転職意向

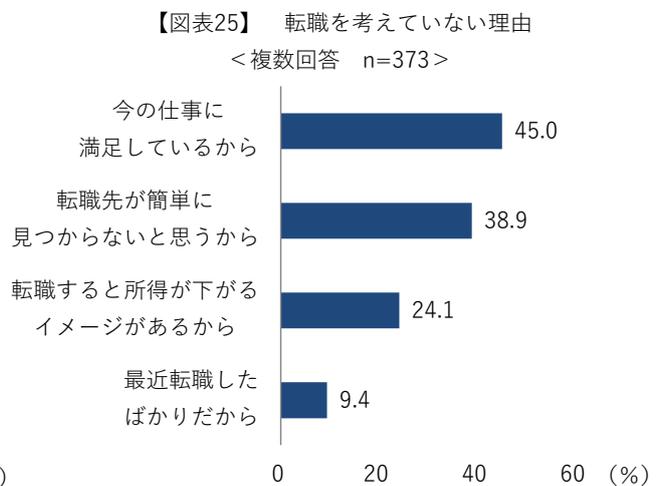
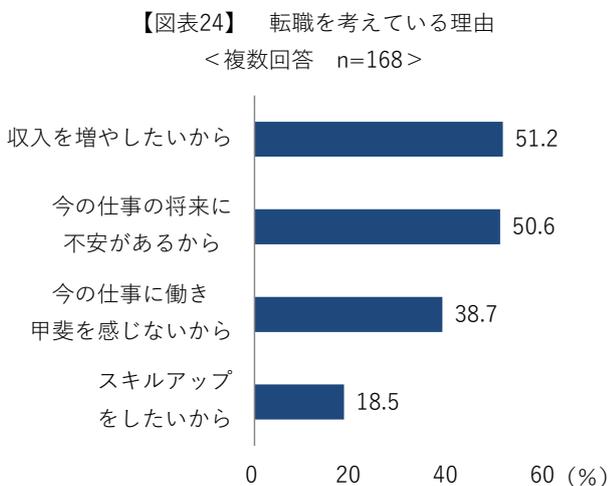
- ・ 転職に対する考え方をみると、「転職活動中である」が4.3%、「今後、転職を考えている」が26.8%、「今は転職を考えていない」が68.9%となった。(図表22)
- ・ 年代別に「転職を考えている」※5人の割合をみると、20代及び30代が多い傾向にある。(図表23)

※5 「転職を考えている」 = 「現在、転職活動中」 + 「今後、転職を考えている」



(2) 転職を考えている理由、考えていない理由

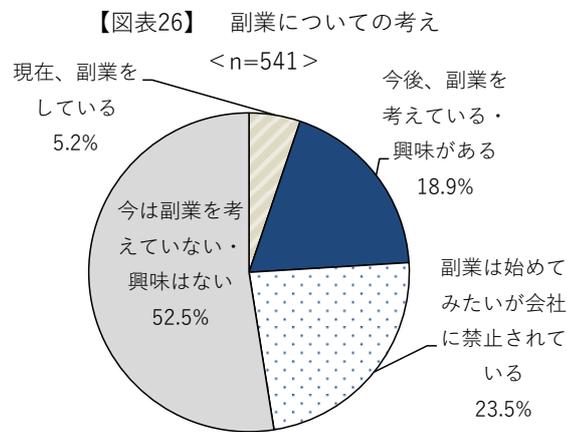
- ・ 「転職を考えている」と回答した人の理由をみると、「収入を増やしたいから」が51.2%と最も多く、次いで「今の仕事の将来に不安があるから」が50.6%となった。(図表24)
- ・ 「今は転職を考えていない」と回答した人の理由をみると、「今の仕事に満足しているから」が45.0%と最も多く、次いで「転職先が簡単に見つからないと思うから」が38.9%となった。(図表25)



4. 副業について<有職者のみ、会社員(管理職含む)・会社役員・公務員・団体職員>

(1) 副業についての考え

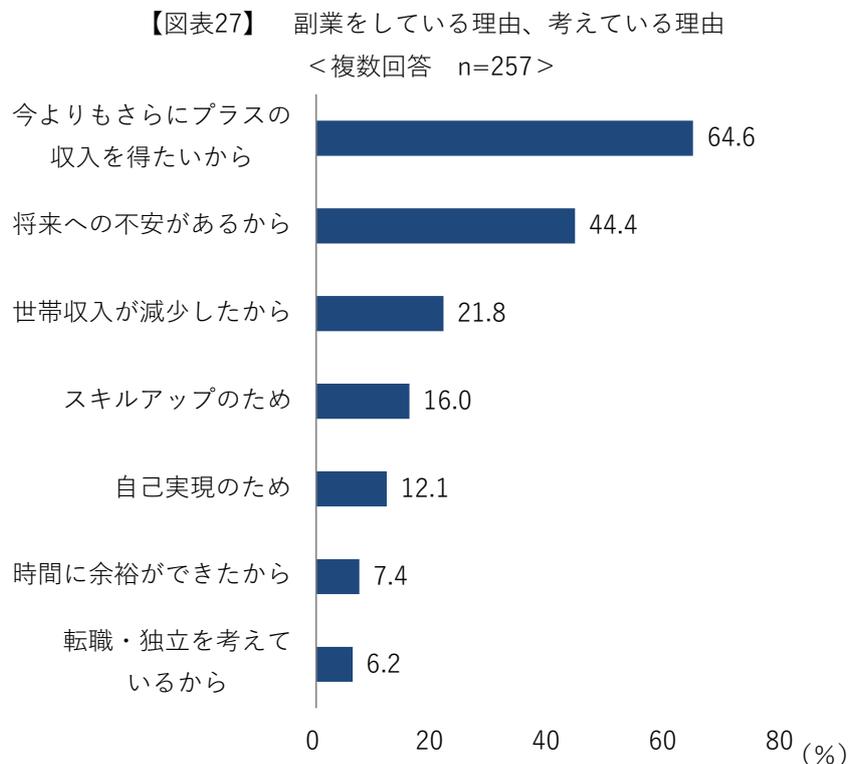
- 副業に対する考え方をみると、「現在、副業をしている」が5.2%、「今後、副業を考えている・興味がある」が18.9%、「副業は始めてみたいが会社に禁止されている」が23.5%、「今は副業を考えていない・興味はない」が52.5%となった。(図表26)



(2) 副業をしている理由、考えている理由

- 「副業をしている、考えている」^{※6}と回答した人の理由をみると、「今よりもさらにプラスの収入を得たいから」が64.6%と最も多く、次いで「将来への不安があるから」が44.4%の順となった。(図表27)

※6 「副業をしている、考えている」＝「現在、副業をしている」＋「今後、副業を考えている・興味がある」＋「副業は始めてみたいが会社に禁止されている」

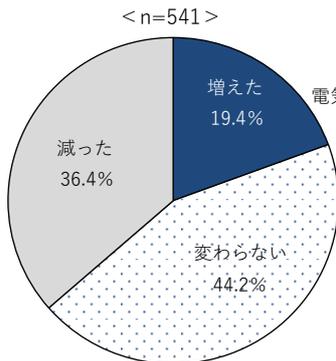


5. 冬季ボーナスについて<有職者のみ回答>

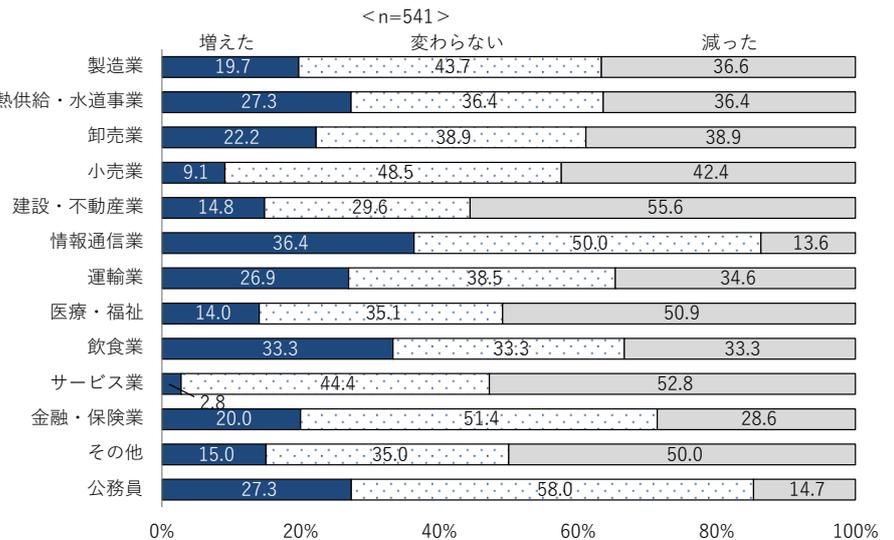
(1) 冬季ボーナスの受給状況(前年冬季ボーナス比)

- ・ 冬季ボーナスの受給状況は、前年よりも「増えた」が19.4%、「減った」が36.4%、「変わらない」が44.2%となった。(図表28)
- ・ 業種別にみると、前年よりも「増えた」と回答した割合が多かったのは、「情報通信業」が36.4%、次いで「飲食業」が33.3%となった。一方、「減った」と回答した割合が多かったのは、「建設・不動産業」が55.5%、次いで「サービス業」が52.8%となった。(図表29)

【図表28】 前年冬季ボーナスとの比較



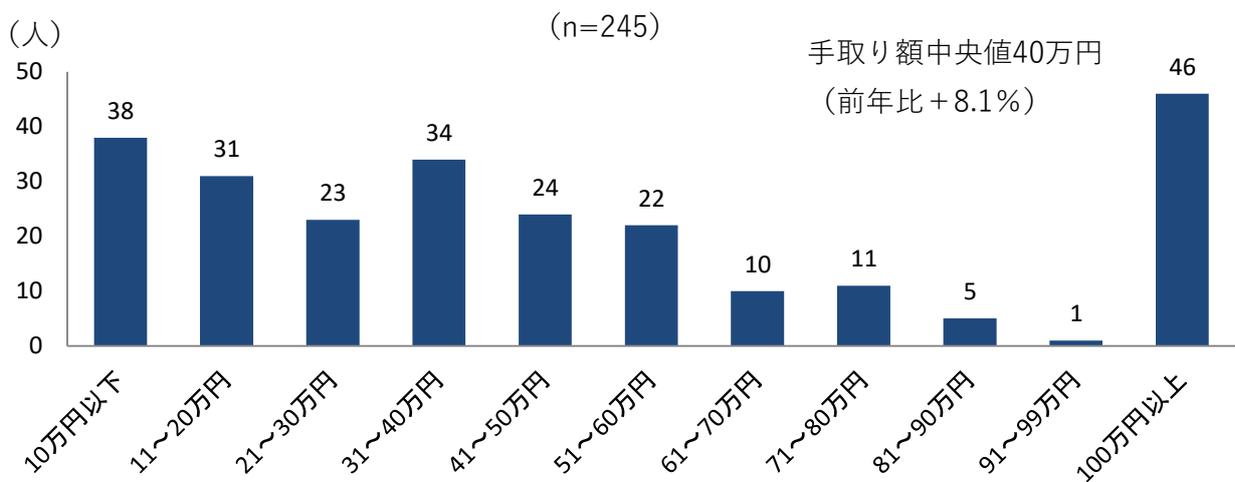
【図表29】 前年冬季ボーナス受給状況(業種別)



(2) 冬季ボーナスの受給額

- ・ 冬季ボーナスを受給した人の手取り額中央値は40万円となった。受給額(手取り額)をみると、「100万円以上」が最も多く、次いで「10万円以下」、「31~40万円」となった。(図表30)

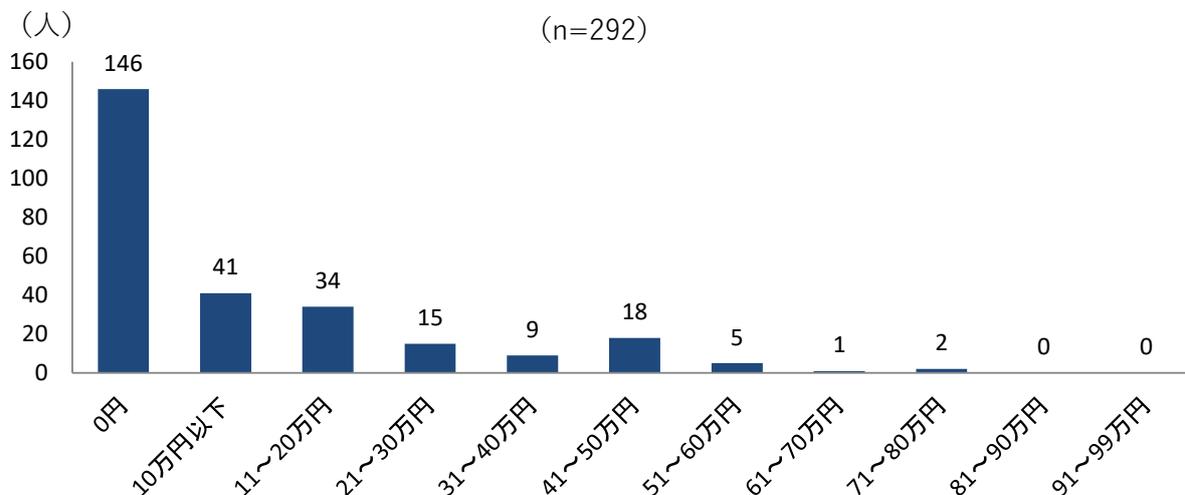
【図表30】 冬季ボーナスの手取り額



(3) 冬季ボーナスから貯蓄に回した金額

- 冬季ボーナスから貯蓄に回した金額をみると、「0円（貯蓄に回していない）」が最多となった。（図表 31）

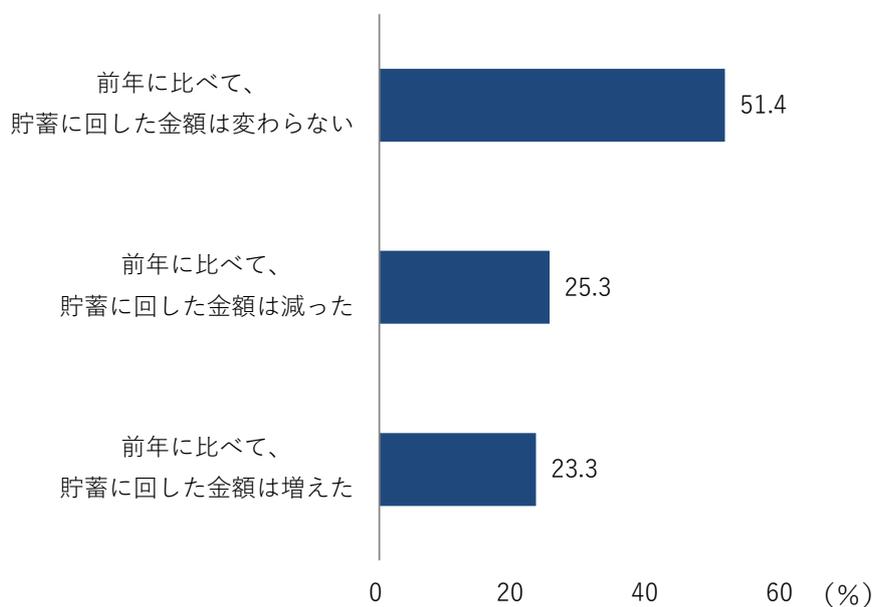
【図表31】 冬季ボーナスから貯蓄に回した額



- 冬季ボーナスから貯蓄に回した金額は、前年に比べて「貯蓄に回した金額は変わらない」が51.4%と最も多く、次いで「貯蓄に回した金額は減った」が25.3%「貯蓄に回した金額は増えた」が23.3%となった。（図表 32）

【図表32】 貯蓄に回した金額の増減

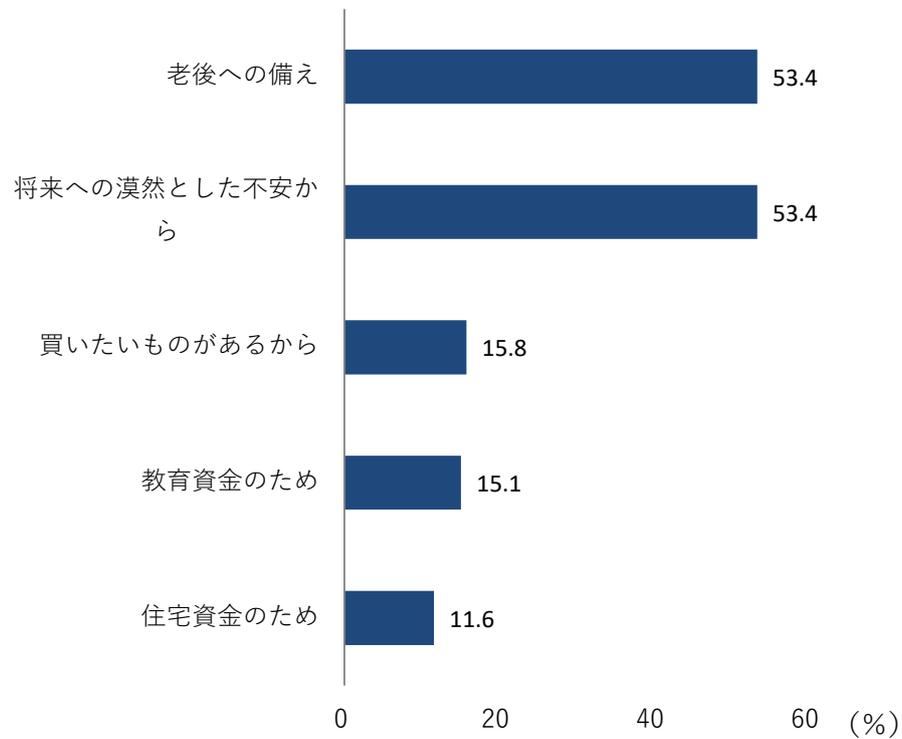
(n=146)



(4) 冬季ボーナスを貯蓄に回した目的

- ・ 冬季ボーナスを貯蓄に回した目的は、「老後への備え」、「将来への漠然とした不安から」が 53.4%と最も多く、次いで「買いたいものがあるから」が 15.8%となった。
(図表 33)

【図表33】 冬季ボーナスを貯蓄に回した目的
(複数回答 n=146)



6. 物価について

(1) 1年前と比べた物価の変化

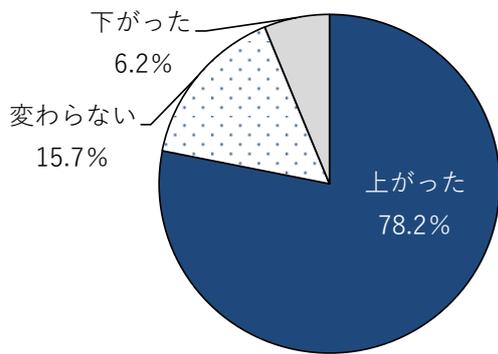
- よく購入する物の価格が1年前と比べて「上がった」※7と回答した人の割合は78.2%、「下がった」※8と答える人の割合は6.2%、「変わらない」と回答した人の割合は15.7%となった。生活必需品の値上がりを多くの人が実感している。(図表34)

※7 「上がった」＝「かなり上がった」＋「少し上がった」

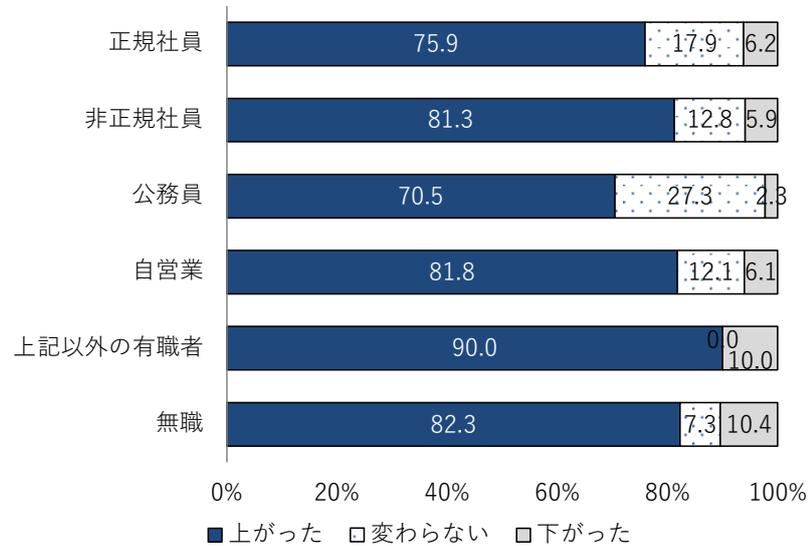
※8 「下がった」＝「かなり下がった」＋「少し下がった」

- 正規社員と比べて非正規社員、自営業の方が物価上昇を実感している割合が多い。(図表35)

【図表34】 1年前と比べた物価の変化
<n=1,001>



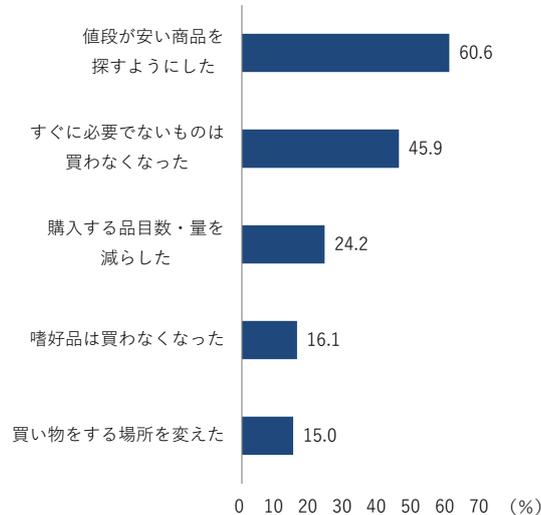
【図表35】 1年前と比べた物価の変化（雇用形態別）
<n=1,001>



(2)物価上昇への対応

- 物価上昇への対応は、「値段が安い商品を探すようにした」が60.6%と最も多く、次いで「すぐに必要ではないものは買わなくなった」が45.9%、「購入する品目数・量を減らした」が24.2%となった。(図表36)

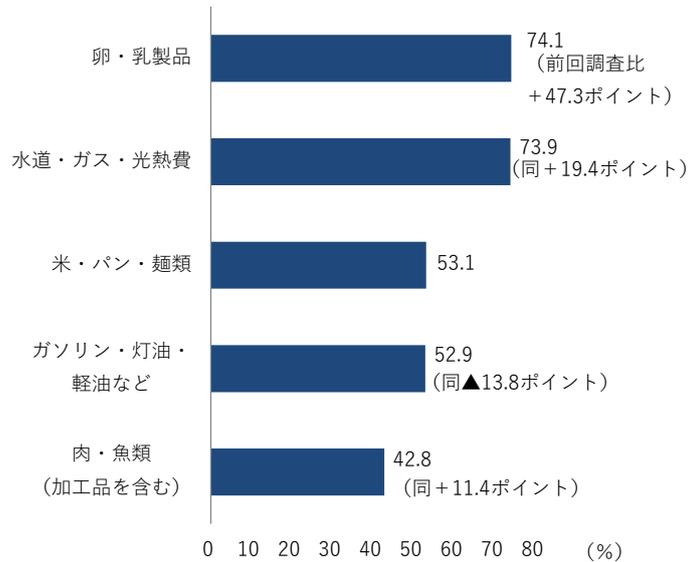
【図表36】 物価上昇への対応
(複数回答 n=782)



(3)特に価格が上がったと感じるもの

- ・ 特に価格が上がったと感じるものは、「卵・乳製品」が74.1%と最も多く、次いで「水道・ガス・光熱費」が73.9%、「米・パン・麺類」が53.1%となった。(図表37)
- ・ 特に「卵・乳製品」は前回調査比+47.3ポイントと大幅な上昇がみられた。鳥インフルエンザ流行による生産量の減少、飼料価格の高騰などによる価格上昇を実感する人が増えている。

【図表37】 特に価格が上がったと感じるもの（上位5項目）
（複数回答 n=1,001）

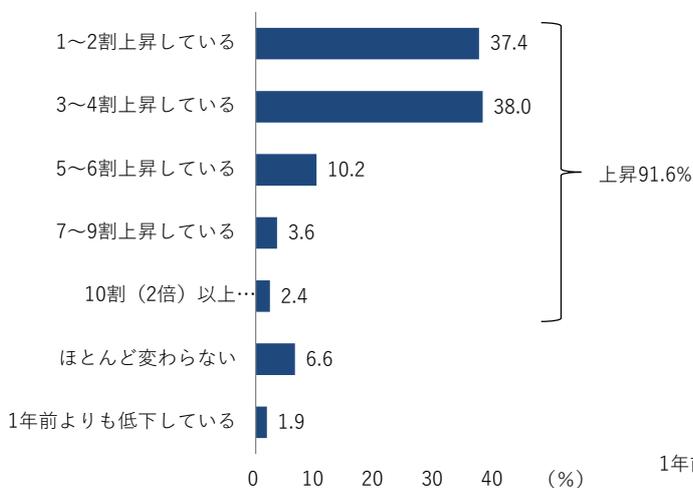


注 「米・パン・麺類」は、前回調査（2022年8月）と選択肢が異なるため比較なし。

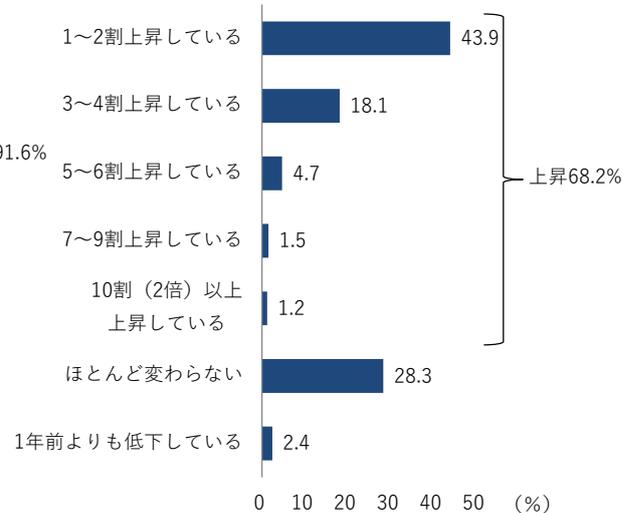
(4)1年前と比べた電気・ガス料金、水道料金の変化

- ・ 1年前と比べた電気・ガス料金については「3~4割上昇している」が38.0%で最も多く、次いで、「1~2割上昇している」は37.4%となった。(図表38)
- ・ 1年前と比べた水道料金については「1~2割上昇している」が43.9%で最も多く、次いで、「ほとんど変わらない」が28.3%、「3~4割上昇している」が18.1%となった。(図表39)

【図表38】 1年前と比べた電気・ガス料金の総額



【図表39】 1年前と比べた水道料金の総額
<n=1,001>



(5)1年後の物価の見通し

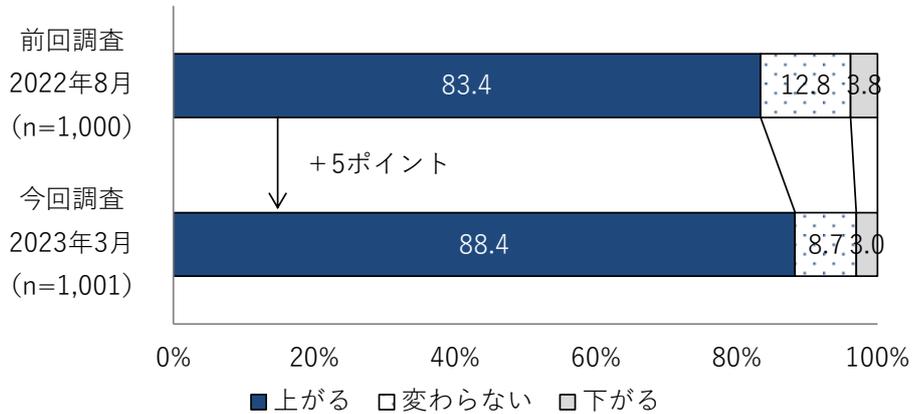
- 1年後の物価の見通しが「上がる」^{※9}と感じている人は88.4%、「下がる」^{※10}は3.0%、「変わらない」は8.7%となった。(図表40)

※9 「上がる」＝「かなり上がる」＋「少し上がる」

※10 「下がる」＝「かなり下がる」＋「少し下がる」

- 物価の上昇を見通す人の割合は、前回調査比＋5ポイント上昇した。

【図表40】 1年後の物価の見通し



以上